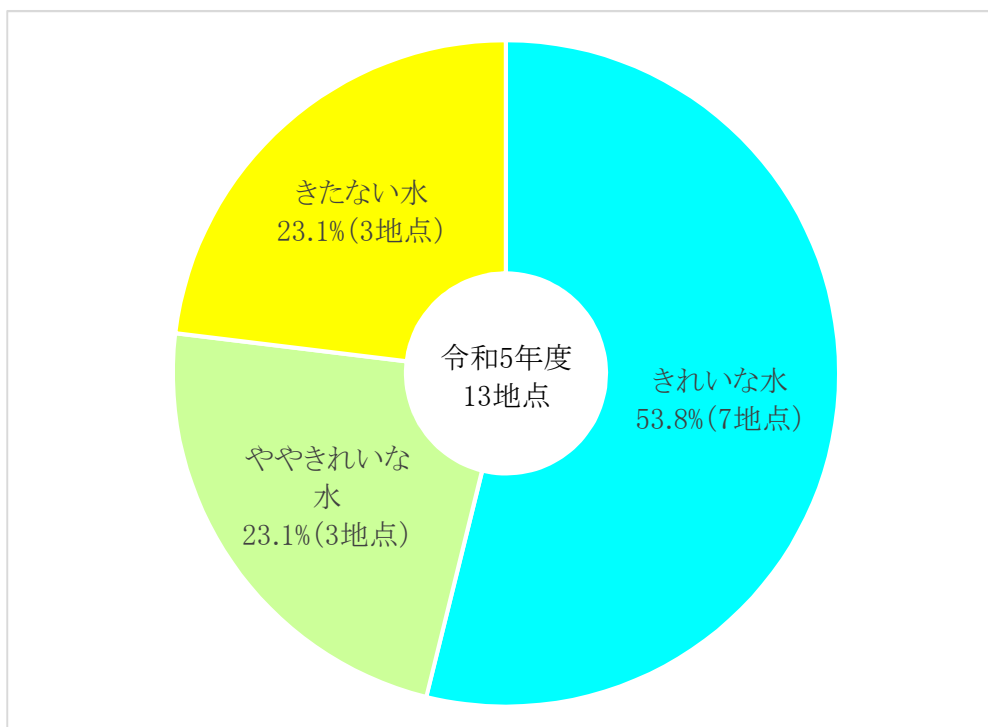


2. 調査結果

(1) 水質階級別調査地点数の割合

水質階級別調査地点数は、図 1 に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は 7 地点(53.8%)、“ややきれいな水”と判定された地点は 3 地点(23.1%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は 3 地点(23.1%)、“とてもきたない水”と判定された地点はなかった。



<図 1> 水質階級別調査地点数の割合

(2) 前年度に対する水質階級の比較

令和 5 年度の調査地点 13 地点は、全て令和 4 年度も調査した地点であった。水質階級を比較すると、前年度より良くなったところが 4 地点、変わらないところが 8 地点、悪くなったところが 1 地点であった(表 2)。

<表 2> 前年度に対する水質階級の比較

	前年度より良くなった	前年度と変わらない	前年度より悪くなった	計
地点数	4	8	1	13
割合(%)	30.8	61.5	7.7	100

(3) 水生生物調査結果一覧

水生生物調査結果一覧を表 3 に示す。

(4) 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度及び最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表 4 のとおりである。

＜表 4＞ 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物	指標生物(○+●)		出現割合(%)	優占種(●)	
		頻度(回)	割合(%)		頻度(回)	割合(%)
I きれいな水	1 アミカ類	1	1.1	40.0	0	0
	2 ナミウズムシ	6	6.3		1	3.8
	3 カワゲラ類	4	4.2		0	0
	4 サワガニ	5	5.3		2	7.7
	5 ナガレトビケラ類	8	8.4		4	15.4
	6 ヒラタカゲロウ類	4	4.2		2	7.7
	7 ブユ類	1	1.1		0	0
	8 ヘビトンボ	2	2.1		0	0
	9 ヤマトビケラ類	2	2.1		1	3.8
	10 ヨコエビ類	5	5.3		3	11.5
II ややきれいな水	11 イシマキガイ ※	2	2.1	27.4	0	0
	12 オオシマトビケラ	3	3.2		2	7.7
	13 カワニナ類	3	3.2		0	0
	14 ゲンジボタル	0	0		0	0
	15 コオニヤンマ	3	3.2		0	0
	16 コガタシマトビケラ類	10	10.5		4	15.4
	17 ヒラタドロムシ類	0	0		0	0
	18 ヤマトシジミ ※	5	5.3		2	7.7
III きたない水	19 イソコツブムシ類 ※	2	2.1	22.1	0	0
	20 タニシ類	6	6.3		1	3.8
	21 ニホンドロソコエビ ※	3	3.2		1	3.8
	22 シマイシビル	4	4.2		2	7.7
	23 ミズカマキリ	3	3.2		0	0
	24 ミズムシ	3	3.2		1	3.8
IV きとたない水	25 アメリカザリガニ	2	2.1	10.5	0	0
	26 エラミズ	3	3.2		0	0
	27 サカマキガイ	1	1.1		0	0
	28 ユスリカ類	3	3.2		0	0
	29 チョウバエ類	1	1.1		0	0
合計		95	100.5	100	26	99.8

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいいきの生物

(注) 割合については四捨五入のため、合計が 100%にならないことがある。